



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

マイコプラズマ肺炎

夏から冬の季節の変わり目…この時期に増えてくるのが風邪です。

① 熱は出るがインフルエンザのような高熱ではない。

② 体が妙に疲れるが、秋の花粉症のように鼻水はひどくない。

③ 頑固な咳が数日続くが、ゼーゼーしないので喘息ではない。

こんな症状が出て、「風邪ひいたかな？」とすぐに判断するのは要注意です。マイコプラズマ肺炎かもしれません。

マイコプラズマって？

マイコプラズマとは、マイコプラズマ・ニューモニエと呼ばれる真核生物であり、細菌の一種です。一見「普通の風邪」と思われがちですが、治療にはすべての抗生物質が効くわけではありません。

感染経路はくしゃみなどによる飛沫感染が主体です。以前はオリン

ピック病ともいわれ、4年に1度流行しましたが、最近の流行は不規則で感染は1年を通して見られませんが、大人の感染例もあり、入院中の方や高齢者は要注意です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎と聞くと恐ろしいイメージがありますが、全身状態が軽い場合が多く、「入院」ではなく「外来」で主に治療されます。さらに潜伏期間が長く、菌を歩きながら撒き散らすという意味で、アメリカでは「歩く肺炎」とも呼ばれます。

症状・合併症

潜伏期間は2〜3週間といわれており、咳・痰・発熱など呼吸器症状が多いですが、頭痛・発疹などが出現することもあり症状はさまざまです。無症状の場合もあります。3〜5%が肺炎に移行し、高齢者などで重症肺炎になるケースもあります。その他、心筋炎、中耳炎、髄膜炎、多発神経炎などさまざま

な合併症にも注意が必要です。

検査法・治療法

採血による迅速抗体検査(約15分)が可能です。抗生物質はマクロライド系やテトラサイクリン系などが使われます。抗生物質により数日で熱は下がりますが、咳は続く場合があります。マイコプラズマ肺炎は症状がさまざまなゆえ、判別が難しく、普通の風邪と診断される場合があります。治療が長引くと恐ろしい合併症を発症する場合もあり、検査を受けることが大切です。

たいていは、「風邪が長引いてる??」程度で終ります。学校保険法においても厳格な規定は無く、全身状態が良ければ登校登園可能となっています。ただ、免疫はできないので、年に2度以上かかるケースもあります。予防法は風邪と同じ、手洗いとうがいです。気になる症状が見られたら、まずは検査を受けましょう。

(長田区 K・H)